



子どもの貧困研究のフロンティア

<第55回>



定例学術研究会

開催のお知らせ

「子どもの貧困は本当に「見えない」のか
ー文化人類学的調査から見る子どもの視点」

報告者：渡邊 陽太 先生

(東京大学先端科学技術研究センター 社会包摂システム分野 特任研究員)

日本の子どもの貧困は「見えにくい」と言われています。しかし、誰／どこから貧困が「見えにくい」のか、という視点は明確に定義されないまま議論がなされてきました。本報告では、著書『子どもの貧困の民族誌ー「見えない」貧困の構築性と社会的孤立』の内容をもとに、これまで「見えにくい」とされてきた日本の子どもの貧困状況を、当事者である子どもたちの視点から捉え直し、貧困の「見えにくさ」が構築されるプロセスを明らかにします。それを通して、貧困における「見えないもの」だけではなく、すでに「見えているもの」とは何かを考えていきます。

2026年 8月 25日(火)

18:30 ▶ 20:00

会場 東京都立大学オープンユニバーシティ飯田橋キャンパス

(東京都千代田区飯田橋3-5-1 東京区政会館 3階 35教室)

ハイブリッド開催 (ZOOMにて同時開催)

お申込み・お問合せ

対面参加でのお申込は[こちら](#)



ZOOM参加でのお申込は[こちら](#)



東京都立大学子ども・若者貧困研究センター

E-mail:rccap@tmu.ac.jp